

総務文教常任委員会会議録

(令和4年12月22日)

愛南町議会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和4年12月22日(木)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人

欠席委員

委員 吉村直城

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

説明のため出席した者

(総務課)

課長	立花慶司	主査	山口昌
----	------	----	-----

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査(机上審査)
 「公共交通システムの調査研究」
- (2) その他

開会 10時00分

閉会 11時35分

○尾崎副委員長 皆さん、おはようございます。

所定の時間となりましたので、ただいまから総務文教常任委員会を始めたいと思います。

開催に先立ちまして、石川委員長より挨拶がございます。

○石川委員長 改めまして、皆さん、おはようございます。

本日の総務文教常任委員会、1名欠席にはなっておりますが、お忙しい中御参加いただきましてありがとうございます。

先週も大雪で今週も大雪警報が出ていると、出るというような予定ですが、久しぶりのホワイトクリスマスになるかとは思いますが、皆さん、車の移動を予定されている方はですね、十分、交通情報含めて留意されて移動していただきたいというふうに思います。

また、愛媛県でもコロナが第7波を超えて第8波ということで、最高の陽性者になっております。皆さんも十分この年末年始、御留意いただいておりますね、過ごしていただきたいというふうに思います。

本日は立花総務課長と山口主査、来られておまして、公共交通のアンケート等の説明をしていただくということで来ていただいております。十分な御審議をしていただきますようによろしくお願いいたします。

以上です。

○尾崎副委員長 それでは、早速協議、報告事項に入ってまいります。進行、取りまとめ、委員長、よろしくお願いいたします。

○石川委員長 早速ですが、公共交通システム調査研究ということで、総務課の立花総務課長、説明をお願いします。

立花総務課長。

○立花総務課長 失礼します。前回の総務文教常任委員会におきまして、愛南町地域公共交通会議及び協議会を12月20日に開催予定であることを報告した際に、同会議の資料の提出を求められておりましたので、同会議で使用しました資料により、協議した内容の概略を報告させていただきます。

最初に資料1、1ページの会次第を御覧ください。

協議会で協議しました議事は、会次第のとおりであります。

(1)の自家用有償旅客運送の変更登録申請については、一本松支所の移転に伴い、3ページの路線変更案を提示し、一部条件付で承認を得ましたので、四国運輸局に路線変更の手続をすることを確認いたしました。また、資料の6ページ、あいなんバス武者泊・城辺線について、西海地域の行政協力員から運行時刻の一部変更の要望があったことから、今後、3便の⑤の運行時刻を、⑥の時刻に変更になる可能性があることを報告、7ページ、こちらは町内の公共交通機関の事業所の状況を説明をさせていただきました。

8ページ、こちらは宇和島自動車バスの乗車人数実績を示し、宇和島自動車から、乗合バス、高速バス、貸切りバスの状況の説明をいただきました。総体的に、コロナ前に比べ減収になっていること、高速バスは城辺発着のバスを運休しているなどの状況説明をいただきました。また、20ページから26ページの資料により、町が行っている交通移動支援に係る事業の情報提供を行っております。

次に、会議次第の(2)の愛南町地域公共交通計画については、同資料の27ページ、28ページに記載しております、計画の目標案、7項目、11指標について説明を行わせていただきました。

次に、資料2を御覧ください。

この資料は、令和4年度「愛南町地域公共交通計画」に関する住民アンケートの調査結果をまとめたものであります。同アンケートは、2,000人を対象に発送し、974人の方から回答をいただき、回収率は48.7%でありました。集計資料は、59ページあり、本日は時

間の関係上資料の見方の説明をさせていただきます。

1 ページを御覧ください。

上段、問1として、外出するときに交通手段がなくて困ることがありますかとの問いに、「困ることがよくある」と回答された方は74人、率にして7.6%、「困ることがたまにある」と回答された方は135人で13.9%、「困ることはほとんどない」と回答された方は704人で72.3%、無回答は61人、6.3%でありました。中段の横グラフは地域区分で、水色枠で囲っている箇所は、分析結果の概要を記載しております。特徴といたしまして、外出時の交通手段に困ると回答した方を地域別に見ますと、一本松地域が25.2%で最も多い地域となっております。下段のグラフは、参考として、前回平成25年に実施した調査結果であります。

19ページ、問7はバスの利用頻度の問いになりますが、回答を地域別に見ますと、一本松地域は利用していないが75.1%と最も高く、西海地域は高い利用状況にあります。

31ページ、問13はタクシーの利用頻度の問いになりますが、「利用していない」が56.8%と最も高く、「年に数回」は13.3%でありました。

36ページ、問18は公共交通の維持・確保に係る財政負担についてお聞きし、37ページ、問19は新しい路線バスや乗合タクシーを運行するとしたら、どのような目的のバスやタクシーが必要かとの問いになりますが、病院、スーパー、商店街等を周遊するバス、タクシーが58.0%と最も高く、「特に必要はない」は10.4%の回答でありました。

53ページ以降は、アンケートに寄せられた自由意見を地域別に整理し記載しておりますので、参考にさせていただければと思います。

また、資料はありませんが、町内のタクシー事業所にヒアリングを行った結果のほうを口頭報告しております。ヒアリングの結果、タクシー事業からは、利用者は高齢者が多く、利用目的は通院、買物、利用する時間帯は午前が多い状況にあること、福祉タクシー・介護タクシー助成を知らない方もおられるので事業の周知が必要であること、利用者は減少傾向にあることなどや、そのほかそもそもあいなんバスは廃線となった路線を補完する運行が基本であり、路線の変更や延長などは慎重に行う必要があるとの声が寄せられたことなどを報告しております。

以上の資料の説明、状況報告を行った後に、各委員からは、あいなんバス運行時の安全性の確保、地域公共交通計画を策定する際は、アンケートで寄せられました厳しい意見を踏まえて今後を見据え持続可能であること、地域別の分析を深掘りする必要があること、一本松地域の状況を掘り起こす必要があること、地域の特性もあり目標を定めること、できることとできないことを見極めて、地域に根差した公共交通計画になるよう求める意見が寄せられております。

なお、今後のスケジュールについてですが、1月に骨子案を交通協議会に提示し、2月中旬から3月中旬にかけてパブリックコメントを実施、その後最終的な計画を取りまとめ、3月下旬に愛南町地域公共交通計画の策定を完了する予定であります。

最後に、資料3を御覧ください。

この資料は、前回、当委員会であいなんバスの利用者から寄せられている問合せなどがあるかとの御意見をいただいておりますので、主な内容を取りまとめた資料であります。寄せられている御意見等は、運行時刻・経路を変えてほしい、便数を増やしてほしい、運転手に対する接遇の改善、バス停で待っていたが来なかった、通り過ぎた、定員超過で乗れなかった場合の対応、あいなんバスの運行が遅れたので宇和島バスに乗り継ぎできなかったなどの御要望や御意見が寄せられており、随時、対応し、御理解をいただいている状況にあります。

以上、簡単ではありますが、愛南町地域公共交通会議及び協議会で説明、協議した内容の概略報告とさせていただきます。

○石川委員長 ただいま説明が終わりました。

質疑がある方はいらっしゃいますか。

金繁委員。

○**金繁委員** 何点かあるんですけど、1つは料金が安いっていうコメントも結構後ろのほうの自由記載のところにあるんですけど、これ私一般質問の中で高齢者については無料にしたほうがいいんじゃないかという提案をさせてもらったんですけど、ほかの町もほぼそうなので、この安いっていう方たちの年齢、年代が分かれば教えていただきたいと思います。

それから、私、この協議会を傍聴させていただいて、何点か委員の方から問題提起、課題が出されていたと思います。このアンケートの中にもありますけど、一本松地域の方たちが、やはりもっと便利にしてほしいという声があるんですけど、こういう声に対して、一本松の地域に対して、今後、地域の分析をどういうふうにする予定かという点が2点目です。

それから、これは計画自体は交通全体のことなので、特に交通弱者に特化した計画ではないと思うんですけど、当然含まれていると思うんですけど、障害者団体との話し合いもされたというようなことも聞いたんですけども、その点について詳しくお聞かせいただけたらと思います。ほかの町の交通計画をつくる中で、交通弱者に焦点を当てた計画作成では、その客観的データ、各地域に弱者の人がどこにどう分布しているかというのもつくった上で公共交通計画をつくっていると、運輸局がそういうプレゼン資料を出していたんですけども、そこまでできたらいいですけど、それは考えていらっしゃるかどうか、以上3点お願いします。

○**石川委員長** 立花総務課長。

○**立花総務課長** まず1点目、御質問いただきました料金が安いという声も出されてはいるんですけども、その年代の分析はというところなんですけど、まだそこまでの分析はできておりません。確かに安いとかもっと逆に安くしてほしいとか、無料とかという意見も皆無ではございませんので、今言われましたその年代的なところ、傾向がどうあるかっていうのは、やはり分析をして事務局として押さえておかないといけないのかなというふうに考えております。

それと、一本松地域に対してどのように今後分析する予定かというところではありますが、今回、地域別の特性を見ますと、西海地域はあいなんバスの利用状況が高いということで、公共交通に依存するところは高いんだろうなというふうには見てとれるかと思えます。逆に一本松地域のほうは、公共交通、タクシー等も含めてなんだとは思いますが、利用する頻度が低い、それはどうしてかというところは、当然ちょっと協議会の中ではもっと深掘りして公共計画の策定に生かすべきではないかという御意見も頂いておりますので、今後、詳細な分析はちょっと当然必要かなというふうに考えております。

1つ現行で申し上げますと、一本松地域におきましては、他地域とは異なりまして、毎日の運行ではなくて2日に1回という運行で、一本松地域を大きく2つに分けて運行している。そういったところで、一本松地域の方の利便性は他地域に比べるとちょっと低いことがまず1つの要因として考えられるのかなと。

それと、今年度の他の一般質問の中でも、一本松からコミバスであいなんバスで市街地に来ようとする1時間近くかかってしまう、やっぱり利便性をもっと高めるべきではないかなという御意見も頂いております。確かに同じ町内の中で県立病院があります市街地のほうに赴くということになると、1時間を要する時間は確かに長いかなというふうに思っております。

その辺も背景理由として考えられるのではないかなというふうには思っておりますが、1点目の年代構成ともつながってくるころではあるかと思うんですけど、もう少しこの辺は地域の特性は深掘りした分析が必要で、課題抽出をしてですね、課題として捉える必要があるのではないかなというふうに考えております。

それと、障害者団体など交通弱者の方々の意見を聞いてどういう状況であったりとか、そういった意見を聞いて公共交通計画策定するほうがよいのではないかという御意見だったかと思うんですけども、一応ですね、障害者団体の方、代表者の方にお問い合わせして、会の中で

御意見をいただき、またお持ち帰りをいただいて後日御意見のほうをいただいているような状況です。中にはあいなんバス、公共交通の利用に際して料金を無料にしてほしいという御意見も寄せられております。それと、便数が少ないであるとか、もっと便数を多くしてほしいとか、そういったような声も寄せられております。ほぼ今のところ詳細な集計はまだ行えておりませんが、アンケートで御回答していただいた内容とほぼ類似するような声が寄せられているところではあります。

それと交通弱者、当然若い方で免許証を持っておられない方とか、高齢者の方とか、交通弱者を捉えると多岐にわたるかなというふうに思っております。こちらのほうにつきましても、でき得る限りお一人お一人については2,000人の無作為抽出のアンケートでお聞きをしていることも踏まえまして、それにプラスアルファ老人クラブでありますとか、先ほど御意見いただきました障害者団体の方とか、そういったところ、でき得る限りお話を聞きながら、また介護タクシーのほうにも今の利用状況がどういったところがあって、どう考えられているのか、できる限り今回は御意見を伺うようにさせていただいております。

ただ、そういった中で課題が浮き上がった、抽出ができたとしても、全てのところを同計画に反映できるかというのはなかなか難しいところがあるのかなというふうには思っております。

今回の計画におきましては、ある程度課題のほうは明確に押さえた形で具体的な事業実施についてはそれぞれの所属のほうにおきまして改善とか工夫を行いながら取り組んでいかなければならないのかなというふうに現時点では考えております。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。もう少しありました。あと2点。

アンケートの一番最初の質問で、交通手段がなくて困ることがありますかということで、前回に比べてかなり改善して56.4%から72.3%に改善しているんですけども、もちろんあいなんバスが路線拡張して、本当に便利になったという面が大きいんだろうと推測するんですけども、一方で協議会の中でちらっとこの調査をされた会社の方が、前は女性が回答者が多かったけれども今回は男性が多かったという分析がありまして、それちょっと気になるんですね。やはり男性のほう免許を持って運転する人が多いんじゃないかなと私思うんですけど、なのでこの困っている、いないの性別クロス集計をしたら、より分析されることができんじゃないかなと思ったので、もし既にされていたらその点教えてください。

それからもう一つアンケートの中にもありますけど、柏とか56号線沿い、宇和島自動車通っているところは、あいなんバスの乗り降りができないということなんですけど、これも課題としては認識されていると思うんですけど、これがどういうふうな解決、できるのかできないのかを含めてあるとは思いますが、これ、そもそもなんですけど、宇和島自動車さんに対してこの56号線を走ってもらうということで、補助金は出されているんですかね、毎年。出されていたらその額も教えてください。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

まず、今回のアンケートをいただいた方々の性別のクロス集計なんですけれども、ちょっと申し訳ありません、現時点ではしているかどうか把握はできておりません。一応ですね、この集計かけるときのところの視点では、基本的には交通弱者、児童・生徒から高齢者まで多岐にわたるといところで捉えておりましたので、特段ちょっと性別区分の要素というのは、上位に必要なのかなというふうには考えておりましたが、集計的に性別はお聞きしておりますので、その辺の集計はできようかと思っております。

それと、競合区間のところの部分の課題のところなんですけど、あいなんバスと宇和島バス、

○原田委員 この集計データを見ますとですね、資料1の中で各路線の利用状況が載っていますが、やっぱり特に問題となるのは一本松の2つの路線だと思います。

ちょっと確認したいんですが、これ1日の平均乗車人数ですね、この11ページを見ますと一本松の2つの路線が10人を下回っていますね、1日平均。これは1日4便あると思うんですが、それをトータルして1日にこの人数なんですかね。

○石川委員長 総務課長。

○立花総務課長 そのとおりでございます。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 これは幾ら何でもこの人数というのは、本当に少な過ぎるというか、ほとんど空の状態で走っていると一緒なんで、これは今課長からも説明があったように、市街地に行くのに1時間ぐらいかかるということで、大変これ不便だと思いますね。特に病院とか買物、スーパー等に行くのにもやっぱりそれぐらいかかると思うんで、これ、住民からこのようにコースを変更してくれとか、そんな意見、もうこれ運行して6年目になると思うんですけど、その間そういう意見というのはどうですかね、出ましたかね。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

今年度ですね、地区要望からそのような声は寄せられております。ただ、先ほど申しましたように、コミュニティバスの運行と申しますのが、支線があったところを補完するということの方がまず基本にあらうかと思えます。確かに一本松地域のほうから市街地に出るのに時間はかなり、ちょっと常識では考えられない時間を要しているかなというふうなところはございます。

ただ、国道56号線、内海も同じことが言えるのかもしれませんが、宇和島バスが走っているところがございます、なかなか競合する区間のところ、路線を大きく変更して利便性を高めるような経路に変更することが可能なかどうかは、ちょっと課題として今捉えているところであります。

先ほど申しましたように、行政協力員から要望をいただいているところがございますので、若干時間はかかるかとは思いますが、アンケート結果のところからも一本松地域の公共交通の利用状況、あいなんバスを見てみますと、かなり低いところ、やっぱりそれは利便性が低いということが背景にあらうかと思えますので、客観的なデータも整いましたので、この辺を踏まえてちょっと協議は進めていかなければならないのかなというふうに考えております。

それと、前回の会でも申しましたが、コミュニティバスにあまり特化し過ぎたところになってしまいますと、タクシー事業者への影響も少なからず出てくることであらうかと思えますので、その辺も含めてですね、地域の方々と意見を交わす場は設けないといけないのかなというふうに考えております。

以上です。

○石川委員長 西海線とか、今後久良線とかですね、中浦線、それは国道を通って病院のほうまで来ていますよね。だからそういう意味からしたら、一本松も何らかの手を、住民の要望が満足できるような方法が私はあるんじゃないかなというふうに思うんですけど、いかがですか。

立花総務課長。

○立花総務課長 そういった御要望は現実的に当然強くされてくると思います。しないということを行っているわけではございませんで、ただ、先ほど申しましたように、基幹バスが基幹道路を走っている地理的要件がまずあること、それと、タクシー事業者への影響も少なからずあることも踏まえて、このあいなんバスの利便性を高めるのにどういう形態がいいのかは協議はしてまいりたいというふうに考えております。

○石川委員長 民業圧迫というの分かるんですけど、他地域との格差が私はあるように思うんで

すが、いかがですか。

立花総務課長。

○立花総務課長 そうですね、他地域のほうはある程度市街地に直通するような動線で運行しているのは事実でございます。先ほどもちょっと触れさせていただきましたが、あいなんバスの運行路線というのは、廃線となった宇和島バスの路線を引き継ぐというところが基本的なところでもありますので、なかなか経路を単純にちょっと変更するということについては、一定程度の手順を踏んだ形で進めていかなければならないかなというふうには考えております。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 今、ずっと、それぞれ住民の方利便性を求めてちょっと便利になった、もう少しもう少して、これ当然のことだと思うんですけど、そのここでは廃止になった路線の補完事業だということを、それが本来の一番の基本だと思うんですが、それをやっぱり町民の方にもうちょっと理解してもらおう、これちょっと難しいかな、理解してもらおう努力もせんといけんのやないかなとは思いますが、その辺はちょっと難しい質問かな。やっぱり基本的姿勢を理解してもらった上で、それから次へ進むというのが重要やないかとも思うんですが。

それと、やられとるとは思うんですが、あいなんバスと各種の支援事業がありますよね、福祉タクシーとか介護タクシーとかいろんな。要はこれをうまく、うまくというか組み合わせさせていって、ほんで交通弱者の方にも、何とか組合せで交通弱者の方の利便性を図るとか、ちょっと難しい話かもしれませんが、そういう連携を取りながらやっていかんと、あいなんバスだけで完全な利便性を求めるというのも、ちょっと難しいかなと思います。

それともう一つは、ここでする話やないかもしれんですが、両方になるんですが、要は利便性が悪いとかいろんな問題が出てくるのは、あいなんバスと福祉関係の支援と、福祉タクシーとかの支援との中で漏れてしまうグレーゾーンの方々も結構おられると思うんで、その辺も拾い出していかにといけんと思いますが、その辺はどのように考えられていますか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

最初の御質問のところで、あいなんバスも含めて運行に際して理解を求める取組が必要ではないかというところではございましたが、一応、やっぱり日々あいなんバスに関しましてはいろんな御意見が寄せられていて、御理解をいただきながら利用していただいている状況です。今回のタクシー事業者のほうにも、あるいは介護タクシーさんのほうにも、現状についてお聞きする機会がありまして、その辺を含めてですね、町のSNSのほうで愛南町内にある公共交通、あいなんバスも含めてなんですけど、こういった形態がありますよというところで、一応対外的に周知をするような取組を今回始めさせていただきました。その周知がどういった効果があるかは明確なところではないんですけども、そういった公共交通、事業所はこういったところがあって目的はこういったところですよというところは、周知を引き続き図っていかなければいけないのかなというふうに思っております。

それとあいなんバスと他の支援サービスとの連携、例えば過去も議会の中で何度も意見をいただいている福祉タクシー助成300メートルの要件でありますとか、それから当然、今、池田委員が言われましたその要件を満たさなければ、場合によっては漏れてしまう方もいらっしゃるんじゃないかというところではございましたが、9月の議会のときに、多分答弁をさせていただいたかと思うんですけども、福祉タクシーについては、今、目的でありますとか対象者について、やっぱり見直す必要があるんじゃないかということで、今、検討を進めているところでもあります。その内容がどういった形になるのかは当然変更する点が確定をしましたら、議会のほうに当然御説明をする場ができるんじゃないかなと思うんですが、それが本当にどういう形での変更になるのか、どの時期からなのかは現時点ではちょっと申し上げられないところなんですけど、やはりこれまで議会の中で、また本日、先ほど池田委員から言われました御意見

も踏まえまして、やっぱりあいなんバスと他の移動福祉サービスの連携は一定程度やっぱり取る必要があるというところと、場合によっては漏れてしまう方も当然いらっしゃるというところを踏まえて、どういう形態がいいのかというの、今検討をしているところであります。

ですので、今回実施しましたアンケート結果につきましても、福祉分野のほうには情報提供させていただくとともに、先般の交通会議にもオブザーバー的などころですね、会のほうに保健福祉課、高齢者支援課のほうは出席をしていただきまして、できるだけ共通認識を持って課題に取り組んでいこうというところであります。

以上です。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 いろいろ意見出たんですけど、今年から路線変更をした西海方面ですね、武者泊・城辺とか、外泊・城辺、これらについては、やはり利用を見ると非常に高い数が出ております。これは、通院とか通学とか買物、これ三大ニーズかと思うんですけども、これらがやっぱり十分満たされた状況が今出ているのやないかと思えます。それと併せて、7地区から船越方面に行く交通のほうも、今回、設置をいただいて、十分満足されておるんやないかと思うんですけど、やっぱりそういったニーズ、公共交通との兼ね合いも当然ありますけれども、可能な限りほかの路線、一本松とか大僧都・敦盛線についても、やっぱりそういったニーズが十分でないのが明らかなので、公共交通との兼ね合いもありますけど、前向きにですね、取り組んでほしいと思えます。

それで、今度以前一般質問もしたんですが、樫月の上りの道路ですね。用地交渉等もあったということなんですけど、あれは、いずれ順調に交渉のほうはいつておるんでしょうか。分らんですか。

（「そこはちょっと」と言う者あり）

○尾崎副委員長 そこは聞いていないですか。分かりました。結構です。

○石川委員長 あの、資料1の11ページ、これとあと資料2の1ページ、「困ることがよくある」、「困ることがたまにある」が一番多い一本松地域で、なおかつ利用率が低いというのはですね、やっぱり使いづらいということに、このデータは示しているというふうに私は理解しているんですけども、この一本松地域ですね、これやっぱり私はこれ委員会でここに集中して取り上げたらどうかというふうには思っているんですけど、やはりせつかく税金を投入してあいなんバスを運行している。その中で住民のニーズを酌み取って利用率を上げるというのがですね、一番いい方法じゃないかなというふうに思いますので、この点について総務課長、御意見があったら。

総務課長。

○立花総務課長 一応ですね、公共交通計画を所管する総務課としまして、一本松地域に限ったところでお話をさせていただきますと、先ほども申しましたがアンケート結果、あるいはその利用状況から見ると、地域別に見た場合はやっぱり一本松地域には結構深掘りをした形での分析が必要だというふうに考えております。

それと行政協力員から運行路線についても見直しを求められる声も寄せられておりますので、一応、この内容を踏まえてですね、一本松、まず行政協力員さんの方々とは意見交換は行いたいなというふうには考えております。ただ、行政協力員さんの方々も全ての方の御意見を聞いているわけではございませんので、まずは地域を代表する方々と意見交換を行いながら、また、そういったその場で寄せられる御意見を踏まえてですね、地域の方々と場合によってはあいなんバスの路線の在り方というのをお聞きする場面は、別途必要になってくるのかなというふうには想定しますが、先ほど申しましたように、一応行政協力員さんの方とこの資料をお渡しして意見交換は行いたいなというふうには考えております。

以上です。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 シャベってないのも私だけになりましたので。確かに一本松の利用者数は少ないですね。それと続いて由良半島の乗車率も少ないということで、一度一本松がどういうところを走ってどういう状況なんかなど、1日4便、3時間ごとに走る必要があるのかなというような気がします。由良半島も1日平均10人っていますけども、これは朝と夕方の2便で昼間の2便はほとんどゼロであるということなんで、数字がこれだからというんではちょっとね、信用ができないですけども、先ほど総務課長も行政協力員さんということを言われましたけれども、2年前から柏崎の自治会では地区要望で出ているんですよ、今まで宇和島自動車の路線があったのにあいなんバスになってからうちは助けてくれないということで、さんざんばら言われまして、前の総務課長に言いましたらけんもほろろに断られましたが、イメージとしては鳥越トンネルから柏までは乗車できませんね。柏まで来ます。柏で降りて、柏崎まで行って引き返してきたらいい話なので、由良半島からの分を柏崎に行きなさいというわけではないんですよ。柏に来て柏から柏崎に行けばいいんで、そういう路線変更も一応考えたほうがいいですよ。

私、由良半島のことしか分かりませんが、内海村っていうのは、結構由良半島は生活圏は宇和島なんですよ。宇和島も岩松から須下まで宇和島コミュニティバスを走らせておるんですよ。これは、柿ノ浦から由良半島を通る道で乗りなさいということ。須下峠で一旦上がって須下に下りていくんですね、あのバス。ということは、あいなんバスと一緒に時間的に同じような時間で止まれば、網代、魚神山の人たちが須下峠で、宇和島コミュニティバスに乗って岩松まで行けるわけですね。そういうこともやっぱり考えていったほうがいいと思います。宇和島広域事務組合と一緒にやっているんですから、その辺のところは何かできるんじゃないかなど。そういうふうにならざるにちよつとちよつとちよつと路線を変えながら、時間を変えながらということは、私は検討する必要があるというふうに思っております。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 由良半島のところの宇和島とのコミバスの時刻の調整というのは、ちょっと私と担当が知る限り調整したことはございませんので、ちょっと改めてその辺は内容確認をさせていただいて、状況に応じて対応していきたいというふうに考えます。

それと、柏崎・柏のところ、あそこも確かにいろいろと寄せられる声はあるんですが、以前の那須議員から寄せられた時点でのあくまで話ではあろうかとは思いますが、当時、柏崎にお住まいの方々に、福祉タクシー助成のほうを利用されていらっしゃる方がどうも何名かいらっしゃるようで、仮にあいなんバスが柏崎のほうに来るようなことになると、福祉タクシー助成の対象にならないおそれもあるというところで、主に福祉タクシー助成の対象となっていた方々に御意見をお聞きした中で、その当時ではタクシー助成のほうを希望するよという多分声があった上で、多分お答えをしたんじゃないかなというふうには思います。

以上です。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 去年は地区要望で上がりましたね。今年は上がっていない、今年は上がっていないですか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 今年も地区要望としては上がっておりません。ただ、以前からこのお話が出ておりましたので、状況確認のために、状況というか御意向確認のためには一応この内容も含めて区長さんとはお話をさせていただいております。

現時点ではそう強く路線を望むというところはないのかなというふうには捉えてはおるんですけども、多分そういったところがあって地区要望、今年度は上がっていないんじゃないかなと思うんです。ただ、一部、やっぱり声は出ていると思いますので、先ほど申しましたよう

に、福祉タクシー助成の対象になっている方をまずは今はちょっと優先をしているんじゃないのかなというふうには捉えてはおります。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 今、お話があったように、そこら辺で福祉タクシーの例えば300メートルの線引きがある。その外側、福祉タクシー対象になった方と300メートルぎりぎりの、柏崎やったら周辺の方々、そこらのやっぱり、多分取り方で福祉タクシー対象の方に御意見を伺うと当然そうなると思います。けど、300メートルぎりぎりでもちょっと歩行に不自由な方とかその方々に今度取ると、多分入ってくれという話にはなると思うんで、そこら辺ちょっと難しいけど、やっぱり両方から取りながら、意見聞きながらというのも、あまり意見があり過ぎるとまとめるのも大変やろうけど、そこら辺も重要やないかとは思いますが。

○石川委員長 総務課長。

○立花総務課長 柏崎・柏線に限ってまずお答えさせていただきますと、一応行政協力員の方は、以前からそういった声も寄せられているということなので、また今年もですね、地元の方の御意見を聞く予定だというふうには伺っております。

それと、先ほど来他の議員各位からも福祉タクシーの300メートルの要件で漏れるグレーゾーンの方、対象になって選択をどうするのかというところ、先般の議会の中でも、産業委員会の中で福祉タクシーの分の報告をいただいたところがありますので、先ほど申し上げましたように、担当課のほうではどういう在り方が今時点で考えられ得るのかは協議をしておりますので、必要に応じて担当課のほうからは説明が行われるものではないかなというふうに思っております。

そういった意味でも、公共交通、あいなんバスに限った話ではございませんが、町が独自にしている移動助成、交通移動助成、それと民間事業者が行っている基盤、そういったところを含めて交通計画の策定は進めてまいらなければならないかなというふうに考えております。

以上です。

○石川委員長 ここで、立花総務課長と山口主査は後の会議がありますので、退席させていただきます。

それでは10分間休憩しますので、10時5分まで休憩します。

(休憩)

○石川委員長 休憩前に引き続きまして、開催したいと思います。

まだ質問の足りなかった方もいらっしゃるかとは思いますが、今後の取組をちょっと考えて質問をしていただきたいと思います。課題になる路線は、今言われた一本松路線、それと一部内海の路線ということにはなろうかと思うんですが、この一本松路線をですね、一度この委員会で分かれて乗ってみてはどうかと、分かれるというんだったら、一本松は曜日で違いますので、大僧都・敦盛線というのもあろうかと思うんですが、特に一本松は直通便がこの愛南庁舎、南宇和病院の直通便はないということで、岩水で乗換えになって、岩水で乗り換えてそれでここに来るような格好になろうかと思えます。

それも月・火やったかな、月・水・金……。この火・木・土しかこの乗換え便もないということになろうかと思うんです。2日、月・水・金乗って火・木・土乗るっちは手はあるにはあるんですけど、それよりも同日に敦盛・大僧都線と、これと分かれて乗るといった方がいいんじゃないかなと私は思うんですが。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 増田・広見・上大道線、増田・広見・一本松いうたら……。

○石川委員長 それはやめてですね、乗換えがある、帰って来れんけんこっちまで。乗換え便がある便しか。

原田委員。

○原田委員 今の委員長の提案、私も賛成です。私ども、実際このあいなんバスに1回も乗ったことがないんで、乗ったことがないのに何やかんや言いよるけん、1回この路線、乗車率の悪い路線に1回乗ってみて、それでまたいろいろまた感想もあろうかと思うんで、1回それ実施したらどうですか。

○石川委員長 視察で乗車するという御意見いただきましたが、皆さん、いかがですか。

(「賛成です」の声あり)

(発言する者あり)

○石川委員長 それでは、大半の意見が一度乗るといふ御意見をいただいたんで、乗ってみましようか。日にちを、日程を決めたいと思うんですが。

今月はちょっと無理なんで、1月の初旬の火・木・土いうたらいつになりますかね。

(発言する者あり)

○石川委員長 じゃあ、日程は1月の10日にいたします。火曜日。

(発言する者あり)

○石川委員長 いやいや、往復なんかとてもじゃない、1日仕事になります。片道2時間かかりますから。2時間。2時間になります。

例えばこの時刻表を見ると、一本松支所、これ小山・正木・中川・満倉線、8時54分発で岩水に10時42分に乗り換えます。それで10時42分で愛南町役場が10時58分になりますね。乗り換えて役場まで。

それとは別に、敦盛・大僧都、この便は往復になりますね。8時14分敦盛。愛南町役場が9時38分、2時間差があるな。これはいかんな。10時39分にして、往復をして12時03分。

2時間かかります。

(発言する者あり)

○石川委員長 3人、4人で分かれて。

(発言する者あり)

○石川委員長 お客さんも迷惑かかるし、コロナですから。幾ら2人か3人しか乗らないと言っても、やっぱり大人数で議員が。2班で。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 それでは、A班、B班で、A班が一本松、B班が敦盛・大僧都線で、議員の割り振りをしたいと思います。希望者から手を挙げていただいて。

吉村委員は一本松に乗っていただくとは思いますが。

○金繁委員 じゃあ、私は僧都線をお願いします。

○石川委員長 はい。

(発言する者あり)

○石川委員長 7人やから4、3です。だから、一本松に4人と僧都線に3人。

(発言する者あり)

○石川委員長 短いです。

(発言する者あり)

○石川委員長 いやいや、別に構わんですよ。

○尾崎副委員長 一本松にしようか、長いのに。

○原田議長 私ちょっと一本松が気になるので一本松にします。

○池田委員 私一本松に。

○石川委員長 そしたら、私と那須委員は大僧都線。2時間、大丈夫ですか。伴走つけときましようかね。

(発言する者あり)

- 石川委員長 乗り換えてここまで来ないけん。
(発言する者あり)
- 石川委員長 那須議員、どうですか、大丈夫ですか。
(発言する者あり)
- 石川委員長 一本松から今度正木へ行って。
(発言する者あり)
- 石川委員長 ほんで小山へ行って
(発言する者あり)
- 石川委員長 中川行って岩水まで。岩水で乗り換えて役場まで。
(発言する者あり)
- 石川委員長 最初一本松支所。8時54分。
(発言する者あり)
- 石川委員長 そうです。
(発言する者あり)
- 石川委員長 大僧都線は10時39分にしましょうか。
1時間違うけど、もうこれしかない。
(発言する者あり)
- 石川委員長 ここでほやけん10時42分には合流するでしょう。
(発言する者あり)
- 石川委員長 第2便で大僧都線は行こうかなと。時間を見て、途中で帰ってくるか。
(発言する者あり)
(「委員長、決めてください」と言う者あり)
- 石川委員長 一本松線A班、吉村委員、尾崎副委員長、原田委員、池田委員。B班、敦盛・大僧都線、金繁委員、那須委員、石川。一本松線は2便の8時54分発一本松支所。敦盛・大僧都線は10時39分、敦盛発ということでよろしいですか。
(「はい」と言う者あり)
- 石川委員長 事務局のほう、何かありましたら。
本多事務局長。
- 本多事務局長 まず1点なんですけども、この日なんですけども、出発もちろん到着時間もばらばらなんですけども、この日はもう乗るだけで特に後から話し合いをすとかということはないということでよろしいでしょうか。
- 石川委員長 いやありますよ。
- 本多事務局長 ということは、帰って昼からということ。
- 石川委員長 帰って昼からやったほうがいいでしょう、乗った後に。アイデアもあるやろうし。今の現状は分かると思うんやけど。
(発言する者あり)
- 本多事務局長 あと1点なんですけども、まず一本松のコースなんですけども、小山・正木・中川なんですけども、これのコースって、一本松支所を一回出てですね、いわゆる正木のほうに行くような感じになっています。また引き返して一本松支所に帰ってくるという形になるんですけども、そういったコース取りで、もうよろしいでしょうかね。それとも例えば……。
- 石川委員長 この時刻表どおり、住民の方が乗られておるとのことなんで。
(発言する者あり)
- 石川委員長 午前中に、11時から委員会開いて、12時までに終わらせればいいんじゃない。
(発言する者あり)
- 石川委員長 そうそう。

(発言する者あり)

○石川委員長 敦盛・大僧都線を1便目にしたらそれは可能なんで。

(発言する者あり)

○石川委員長 これはやっぱり2便目に乗って、フルで乗って。

(発言する者あり)

○石川委員長 どっちにしてもどっちかが待たないかん。

暫時休憩します。

(休憩)

○石川委員長 休憩前に引き続き進めたいと思います。

先ほど2便目の8時54分発ということで、ちょっと無駄があるんじゃないかという御意見をいただきました。それで、太田9時37分発ということでいかがでしょうか。

(「いいです」と言う者あり)

○石川委員長 よろしいですか。

では、A班の一本松便については、9時37分太田発ということで、よろしくお願ひします。

それと、敦盛・大僧都線ですが、敦盛を10時39分じゃなくて8時14分発で、ちょっと早いですがそれで愛南町役場に9時38分と。

(発言する者あり)

○石川委員長 そしたら大僧都、でも敦盛乗らんで。大僧都で帰ってくるという手もあるけどな。大僧都から下りますか。

9時08分発の大僧都ということでよろしいですか。9時08分。

(発言する者あり)

○石川委員長 9時08分よ。

(発言する者あり)

○石川委員長 8時半に出たら、9時8分ですから、多分15分くらいで車やったら大僧都まで行くんじゃないかな。無理ですか。20分かかりますか。いずれにしても、30分はかからないと思います。

(発言する者あり)

○石川委員長 それはまた別途にしましょうか。

本多事務局長。

○本多事務局長 この後、実際に乗車した後に話をされるということでしたら、例えば昼1時半から再度開催するとか、そのあたりは共通認識を持っておいたほうがいいんじゃないかと思ひます。

(発言する者あり)

○石川委員長 私もそう思っている。11時に一本松線は帰ってくると思うんですよ、この役場に。だから1時間程度で委員会まとめていきたいなと思うんですが、よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 一本松線が帰ってくるのが10時58分です。だから11時10分ぐらいからは始められるんじゃないかなというふうに思ひますので、委員会をその後開きたいと思ひますが、いかがですか。

(「はい」と言う者あり)

(発言する者あり)

○石川委員長 あと、そういうことでバスに乗車いただいて、現状を把握していただくと、体感していただくということでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 (2)のその他ですが、何かありますか。

(「なし」と言う者あり)

○石川委員長 それでは、以上で総務文教常任委員会を終わりますので、お疲れさまでした。

委員長